

プレスリリース

2020年5月14日  
国境なき医師団 (MSF)

### **国境なき医師団、アフガニスタンの産科病院に対する襲撃を強く非難**

アフガニスタンの首都カブールで5月12日、国境なき医師団 (MSF) が支援する産科医療施設が襲撃され、複数の患者が犠牲になった。MSF は犠牲になったすべての人に哀悼の意を表明するとともに、この卑劣な暴力を強く非難する。

#### **妊婦や新生児に向けられた卑劣な暴力**

襲撃を受けたのは、カブール市西部のダシュ・バルチ病院内に MSF が 2014 年に開設した産科病棟。5月12日、脆弱な健康状態にある妊婦や産後の母親、新生児が入院している病棟に、人数不明の襲撃者がなだれ込み、その後数時間にわたり爆発と銃撃が続いた。今回の襲撃で、複数の患者が命を奪われ、少なくとも1人のMSF現地スタッフが死亡したとの情報がある。

同病棟は、55床を備え、人口約150万人を擁するカブール市の西部で、これまでにハイリスク分娩を含む5000件以上の出産を介助してきた。MSFは、この病棟が襲撃されたことにより、以前から医療が行き届いていなかったカブール地域の多くの女性と子どもたちが、医療を受けることがさらに難しくなると懸念している。

#### **今後も医療活動を継続**

現在、患者は近隣の病院へ退避し、スタッフも安全地帯に誘導された。今回、襲撃が続く間にも、1人の女性が無事に出産し、現在母子ともに健康が確認されている。先の読めない状況は続くが、MSFは新生児のケア、患者と負傷者への医療提供を継続し、現場のスタッフへの心のケアや遺族へのサポートも行っていく。

MSFは当面、この産科病棟の医療活動は中断するが、閉鎖はしない。MSFはこれまで以上にアフガニスタンの人びとと連帯し、医療援助活動を行っていく。

MSF は 1980 年からアフガニスタンで活動。2019 年には 10 万件余りの外来診療を行うとともに、6 万件余りの分娩を介助した。アフガニスタンにおける MSF のプロジェクトは、いかなる政府からの資金拠出も受けず、すべて民間からの寄付で行っている。


以上

**本件に関するお問い合わせ先：**

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：館 俊平

TEL：03-5286-6141 携帯：080-2344-0684 FAX：03-5286-6124

E-mail: [press@tokyo.msf.org](mailto:press@tokyo.msf.org) <http://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ\_Press